

太子堂地区 まちづくり協議会の歩み



はじめに

世田谷区では、昭和五四年に策定した「世田谷区基本構想および基本計画」において、災害に強いまちづくりを目標とかけ、その推進地区として太子堂二、三丁目を位置づけまちづくりを進めてまいりました。

このまちづくりは、修復型まちづくりと称していますが、住民と区との共同作業として住民参加による活動を重視して今日まで推進してきたところです。

太子堂地区では、住民参加のまちづくり活動の母体として、昭和五七年十一月に「太子堂地区まちづくり協議会」が発足して多彩な活動を進めてきています。

この小冊子は、「太子堂地区まちづくり協議会」の活動を紹介したものです。各地で住民参加のまちづくりを進めていくうえで参考になればという趣旨で作成いたしました。

昭和六三年三月

世田谷区都市整備部街づくり推進課

協議会発足の経緯

「太子堂地区まちづくり協議会」は、昭和五七年に発足しましたが、ある日突然にできたわけではありません。発足にいたるまでに約二年間にわたって討議が続けられました。

当初、区では住民参加によるまちづくりを実践しようとする目的で、昭和五五年から地区の現況やまちづくりの考え方を広く住民の皆さんにお知らせするために「まちづくり懇談会」を開催して説明したり意見交換を行ってまいりました。

懇談会での意見交換がほぼ一年位経過した時期に、住民参加のまちづくりを推進するためには、その母体となる組織（協議会）が必要であるという問題提起を区から行いました。特に、住民参加によるまちづくりの計画づくりを進めるためには、協議会を組織して集

中的かつ段階的に討議を積み重ねていく必要があるという認識から発意されたものです。

懇談会ですと参加者が毎回入れ替わり、討議の内容も繰り返しになるという問題もありました。

協議会をつくることに対しては、大半の住民の皆さんに賛同していただいたわけですがそのあり方については、議論が白出しました。

そこで、有志の方々が集まって「まちづくり協議会設立準備会」が発足し、協議会のあり方、会則の内容、運営の方法、メンバーの構成等についての討議がなされました。

約半年にわたる準備会の討議の結果、会則がまとめられ「自由に誰でも参加できる協議会」という趣旨で公募によるメンバー募集によって六〇名以上の参加を得て協議会が発足しました。

(名 称)

第1条 この会は、太子堂地区まちづくり協議会（以下「協議会」という。）と称する。

(目 的)

第2条 協議会は、太子堂2・3丁目地区の防災性能と生活環境の向上をはかり、安全で住みよい文化的なまちづくりの推進を目的とする。

(構 成)

第3条 協議会は、太子堂2・3丁目地区およびその周辺に居住する者、業を営む者および土地・建物等を所有する者等（以下「関係住民」という。）20名以上の者によって構成する。

(所掌事項)

第4条 協議会は、第2条の目的を達成するため、下記の事項を行う。

- (1) まちづくりのあり方に関して、関係住民等の意見を考慮して協議すること。
- (2) まちづくりに必要な調査・研究を行うこと。
- (3) まちづくり計画案をまとめ、関係住民の同意に努めて、区長に提言すること。
- (4) 区が策定する事業計画等について意見を述べること。
- (5) その他、まちづくりに関すること。

(役員等)

第5条 協議会の役員の構成等は、次のとおりとする。

- (1) 会長1名、副会長3名、運営委員若干名
 - (2) 役員は協議会々員の中から互選する。
- (役員の職務および任期)

第6条 役員の職務および任期は次のとおりとする。

- (1) 会長は、協議会を代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事

故あるときは、これを代理する。

(3) 運営委員は、必要に応じて運営委員会を開催し、協議会運営に関する予備的検討を行う。

(4) 役員の任期は、2年とし、再任を妨げないものとする。

(会員の職務および任期)

第7条 会員は、第4条に定められていることを行う。

2 会員の任期は、2年とし、再任を妨げないものとする。

(運営等)

第8条 協議会は、会長が招集し、会議を主催する。

2 会長は、会員の3分の1以上の要請があった場合は、会議を開催しなければならない。

3 協議会において決定すべき事項は、合意に達するまで相互に努力する。

4 協議会において決定された事項および必要と認められた事項は、随時関係住民に周知する。

5 協議会は、原則として公開とし、関係住民および協議会の承認を得た関係者は、会議を傍聴し、参考意見を述べることができる。

6 会長は、必要により区に対して専門家等の出席や資料の提供を求めるものとする。

(事務局)

第9条 協議会の事務局は、世田谷区都市整備部街づくり推進課におく。

(会則の改正)

第10条 この会則に変更の必要が生じたときは、協議会において検討のうえ変更するものとする。

付 則

この会則は、昭和57年11月17日から施行する。

協議会の性格

「太子堂地区まちづくり協議会」はその会則にもありますように、いくつかの特徴をもっています。それらを整理すると次のようになります。

まず、会の役割は

- 広くまちづくりを話し合う場とする。
- まちづくりに必要な調査・研究を行う。
- まちづくりの計画案をつくり区長に提言する。

まちづくりの目標は

- 防災性能の向上をはかる。
- 快適な居住環境の形成をはかる。
- 文化的なまちづくりを推進する。

メンバーの構成は

- 太子堂地区および周辺に関係する方は誰でも自由に参加できる。
- 地区外の方でも、希望があれば、オブザーバーとして参加できる。

- 会は原則として公開とする。

このような形で、協議会はスタートしたわけですが、この協議会の存在を制度的に担保したのが、昭和五七年に制定された「世田谷区街づくり条例」です。

街づくり条例は、区民と区との共同作業としてのまちづくりを制度的に位置づけたもので、特に重点的にまちづくりを進める地区を「街づくり推進地区」に区議会の議決を得て指定し、積極的にまちづくりを推進することになっています。また、地域のまちづくり組織（協議会）を住民の多数の支持がある場合に「認定協議会」とし、協議会に対する支援や協議会からの提案を尊重することになっています。

太子堂地区のまちづくりは、この「街づくり条例」に沿って進められています。昭和五九年四月に「街づくり推進地区」に指定され同年十月に「認定協議会」に指定されました。

昭和55年	10月	まちづくり懇談会スタート(7回)
昭和57年	5月	まちづくり協議会準備会設立(4回)
	11月	太子堂地区まちづくり協議会発足
昭和58年	4月	学習会の開催(10回)
	8月	太子堂歩こう会、オリエンテーリング
	12月	トンボ広場を育てる会
昭和59年	2月	推進地区指定要望書
	3月	震災体験者の話を聞く会
	4月	推進地区指定 トンボ広場オープン
	5月	緑の点検会
	7月	太子堂きつねまつり、ティーチイン
	9月	提案作成のための検討部会設置(計11回)
	10月	認定協議会へ
昭和60年	1月	中間提案のまとめ
	2月	提案を区長に提出
	4月	区のまちづくり計画の検討(4回)
	8月	きつねまつり、まちの点検会
	10月	ブロック堀点検会
	11月	屋外広告塔問題、ワンルームマンション問題
	12月	建て方ルール部会、広場・緑道部会設置(約30回)
昭和61年	1月	事前協議協定の検討(5回)、せせらぎ見学会
	4月	メダカ広場オープン
	7月	三茶フェスティバル・ティーチイン
	8月	きつねまつり・せせらぎ見学会・交流会
	11月	協議会のありかたの検討(5回)
昭和62年	4月	新方式でのスタート
	7月	三茶フェスティバル・ティーチイン
	8月	きつねまつり、緑道子供シンポジウム
	10月	烏山川緑道整備に対する要望書
	11月	地区計画の検討(8回)
	3月	要望書作成

2章 協議会の活動の歩み

協議会前史から発足へ

(昭和五五年一〇月～昭和五八年三月)

太子堂地区のまちづくりの取り組みを住民参加によって進めるようになったのは昭和五五年度からでした。

■懇談会からはじまる

(昭和五五年一〇月～五七年三月)

区からの当初の住民への呼びかけは、まちづくり通信を発行するとともに、「まちづくり懇談会」を開催することからはじまりました。

太子堂におけるまちづくりの必要性や考え方あるいはガイドプランの説明等を太子堂中学校等の会場で行いました。約百名程度の参加があり活発な意見交換がなされました。はじめての試みて、区も住民も戸惑いながらの懇談会でした。

全部で六回の懇談会が開催され、途中、マ

ンション建設問題等が話題になりましたが、最終的にまちづくりの話し合いの場＝協議会を設置する方向で意見がまとまりました。

■設立準備会を経て

(昭和五七年五月～五七年九月)

住民の有志の方々に集まっていたいで、協議会の設立に向けての準備会が設置されました。四回の会合によって、会則の案が決定され協議会の運営方式や会員の構成等につい



協議会での話し合い

ての考え方が整理されました。途中、各地での事例等を参考にして学習しながら太子堂らしさを生かしたものであるという趣旨でまとめられました。

■協議会の発足へ

（昭和五七年二月～五八年三月）

昭和五七年一月に「太子堂地区まちづくり協議会」が発足しました。公募によって会員の募集を行ったところ六〇名以上の参加があり、地区外からもオブザーバーとして多数の参加がありました。

当初は会員の自己紹介や会則の決定や役員の選出、運営方式、スケジュールの決定等の手続きを巡る討議が繰り返されました。

協議会は原則として、月に一回とし、途中必要に応じて運営委員会等の部会が開催されることになりました。

まちづくり学習と実践

（昭和五八年四月～昭和五八年十二月）

協議会の実質的なスタートとなったのは、昭和五八年四月からでした。まず、協議会のメンバーの間でまちづくりに対する共通認識を獲得するために、講師を招いて学習会を進めることになりました。また、毎回の協議会のあとでまちの話題について自由に話し合い、少しづつ実践的な活動を進めることになりました。



講師を招いて学習会

■まちづくり学習

まちづくり学習は、全部で7回開催されました。そのテーマと講師は次の通りです。

- まちづくりの考え方 ————— 井上氏
 - まちづくりの手法と内容 ————— 井上氏
 - 火災の危険性と防災対策 ————— 世田谷消防署
 - 周辺関連事業 ————— 大谷氏
 - 生活道路のあり方 ————— 小場瀬氏
 - 住宅・住環境について ————— 高見沢氏
 - 環境問題と緑からのまちづくり ————— 進士氏
- 学習会では、メンバーからも活発な質問がなされ少しづつまちづくりの基礎知識が獲得されました。

■まちづくりの実践も

まちづくり学習とともに、まちの話題を語り合うなかで地域に密着した学習の必要性や実践活動の必要性が提起され活動がなされました。

- まちの古老の話を聞く会（円泉寺にて開催）
- 太子堂歩こう会（まちを歩いてまちの点検を行う）

- 太子堂オリエンテーリング大会（こどもの参加によってまちを舞台にオリエンテーリング）

また、実践活動としては次の活動がなされました。

- 協議会ニュースの発行（広く住民に情報を伝える）
- トنبオ広場づくりへの参加（周辺住民と一緒に計画づくりと自主管理）



まちづくり提案の作成

(昭和五九年一月～昭和六〇年二月)

ほぼ一年間の学習や討議を経て、協議会としてまちづくりの提案づくりに入りました。提案づくりとともに協議会の体制や位置づけについても討議がなされました。

■推進地区と認定協議会の指定へ

昭和五七年に制定された「世田谷区街づくり条例」に沿ったまちづくりを進めるために討議が進められました。

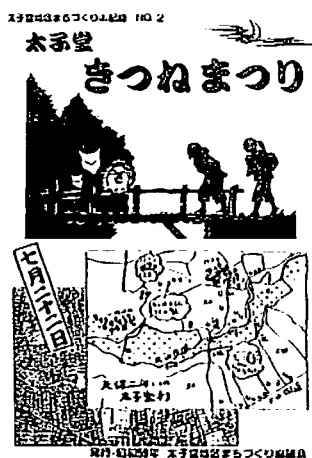
●推進地区指定へ(「街づくり推進地区」に指定されることについて討議され、昭和五九年二月には区長宛に「要望書」を提出し同年四月には区議会の議決をへて指定されました。)

●認定協議会への移行(街づくり条例に定める区が認定する協議会への意向について討

議され同年十月に指定されました。認定協議会への移行に伴い、部会則の変更がなされました。)

■きつねまつりの誕生

前年の夏に行った太子堂を歩こう会やオリエンテーリング大会を発展させ、昭和五九年八月には「太子堂きつねまつり」という名称でイベントが開催されました。協議会ばかりでなく、まちの様々な団体が参加しての楽しい催し物となりました。以来、現在までに、第四回を迎えて地域に定着しています。



「きつねまつりの記録」表紙

■ まちづくり提案の作成

まちづくり提案の作成にあたり、個別テーマの検討が進みました。特に、防災対策と道路問題と緑の問題について討議が進められ次の活動もなされました。

● 震災体験者の話を聞く会

● 狭隘道路の学習と道路の沿道会議

● 緑の点検会（メンバーの植木屋さんが講師）

昭和五九年九月から十一月にかけて集中的に提案づくりに入りました。提案づくりのために、次の三つの部会を設置して討議を繰り返しました。

● 第一部会（安全部会）—— 防災組織との

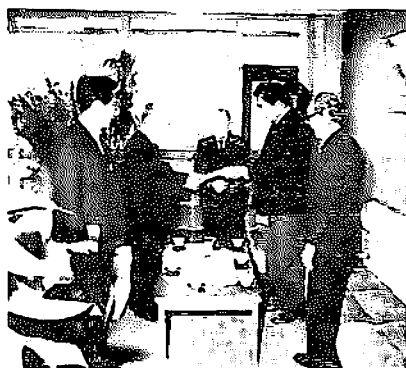
関係、細街路問題、ブロック塀、避難場所等について

● 第二部会（生活部会）—— 建て方のルー

ル、広場づくり、烏山川緑道、緑化等について

● 第三部会（地域部会）—— 地域イベント

コミュニティ、住み方のルール等について以上の部会で提案を検討して、最終的には昭和六〇年一月に「太子堂まちづくり中間提案」としてまとめられ、区長に提出されました。



まちづくり提案を区に提出

個別課題対応と実践

(昭和六〇年三月～昭和六一年一月)

まちづくり提案の作成の後、協議会の当初の目的は達成されたわけですが、さらに検討すべき課題も残っており、まちづくりの実践的な活動の必要性も提起され、継続して活動が続けられることになりました。

区計画案の検討

まちづくり提案を受けて、区ではまちづくり計画の検討に入りました。昭和六〇年四月から八月頃までは区の計画案をめぐっての討議が続けられました。各論の部分では、区と協議会メンバーの間で意見の分かれるところもありました。

個別課題への対応

計画の検討とともに、個別課題への対応や実践活動が展開されました。次の活動があげ

られます。

- 通学路の沿道会議(昭和六一年四月)
- まちの点検会(昭和六一年八月、きつねまつりにおいて)
- ブロック塀点検会(昭和六一年一月、通学路沿道を対象に、三宿小学校PTA校外委員の参加をえて実施)
- ワンルームマンション問題、屋外広告塔問題への対応(昭和六一年一月から)
- 広場づくりへの参加(トンボ広場での四季のイベントの開催やメダカ広場づくりへの参加)



区のみちづくり計画

二つの検討部会の活動

(昭和六一年一月～昭和六三年三月)

その後、協議会では個別課題毎の実践的な活動を推進するために大きく二つのテーマにかけて検討部会を設置しました。

●建て方のルール部会

●広場・緑道部会

また、イベント等の実施にあたっては、広くメンバーを募って推進していくことになりました。その後の協議会の活動は基本的に部会活動が中心になっています。

■建て方のルール部会

建て方のルール部会は、ワンルームマンションや屋外広告塔等の建設をめぐる、地域で紛争が発生していることを背景に設置されました。部会には協議会メンバーの他にも、紛争ケース等の関係住民が参加する形で討議が

続けられています。

大きくは次のテーマでの活動がなされています。

●事前協議協定について（昭和六〇年十二月～六一年六月、街づくり条例にもとづく事前協議協定の締結について区と協議会との間での協議が続けられました。まだ、決定されていません。）

●屋外広告塔問題について（昭和六〇年三月～六三年三月、国道二四六号沿道における屋外広告塔建設について、周辺住民との間で紛争が多発しており、その進展に見合っ

て部会において時々討議され、建て主側から出席された場合もあります。）
●ワンルームマンション問題について（屋外広告塔問題と同様に時々テーマにとりあげられ討議がなされています。）

●地区計画の検討（昭和六二年四月～六三年

三月、区の地区計画によるまちづくりの提案を受けて、現在でも討議が続けられています。昭和六十二年一月には、既に策定されている地区への見学会を開催しました。)

■ 広場・緑道部会

広場・緑道部会では、大きくは二つのテーマに沿って活動が進められています。ひとつは、鳥山川緑道の再整備計画の検討で、沿道住民を含めて活発な討議がなされました。ひとは、ポケット広場の計画や管理について周辺住民とともに実践的な活動がなされています。

●鳥山川緑道整備について(昭和六〇年一月・六十二年一月、鳥山川緑道のせせらぎづくりをめぐる、周辺住民からの反対運動がおこり、この部会場で協議会メンバーと周辺住民との間で息の長い話し合いが続けられました。途中、二回の見学会や緑

道の点検会、屋外討論会、子供シンポジウム等がなされています。部会での討議の結果は、昭和六十二年一月に「要望書」として区に提出されました。)

●ポケット広場について(広場については、トンボ広場やメダカ広場の経験を広く展開するために新しくできる広場づくりについて周辺住民とともに話し合いがなされています。また、既存の広場においては四季おりおりイベントが開催されています。)



鳥山川緑道点検会

太子堂を 歩こう会

(昭和五八年八月、以下数回)



里イスを使って歩く



歩きながら話し合いの輪が

まちの人たちと一緒にこんな楽しいことをやったのははじめてです。長生きしてほんとによかった。

江原 静さん(故人)

「まちづくりを考えるためには、まちに出て見よう!」という趣旨で、協議会メンバーが夏の一日、まちの点検会を開きました。

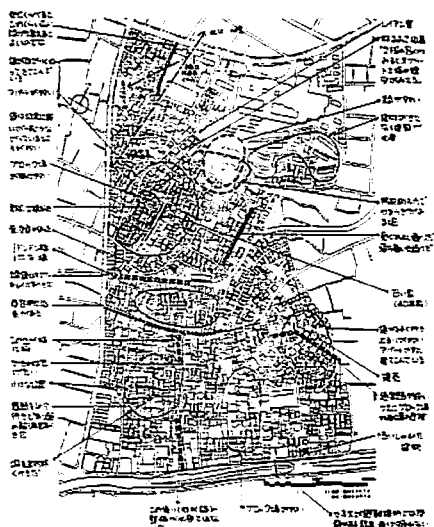
地図をもち、まちをぐるぐるまわるコース、歴史を学ぶコース(講師は床屋の山田さん)、避難地見学コース、こどもコースといった形にわけて語りあいながらまちを歩きました。

歩いた後には、その結果を地図に記入し、お互いに発表して今後のまちづくりの参考にしました。

こどもの歩いた結果の地図には、「虫のいる場所、猫の多い場所、変な臭いのする場所」といった違った目からの提起がありました。

点検マップ・1 (大人4グループ)

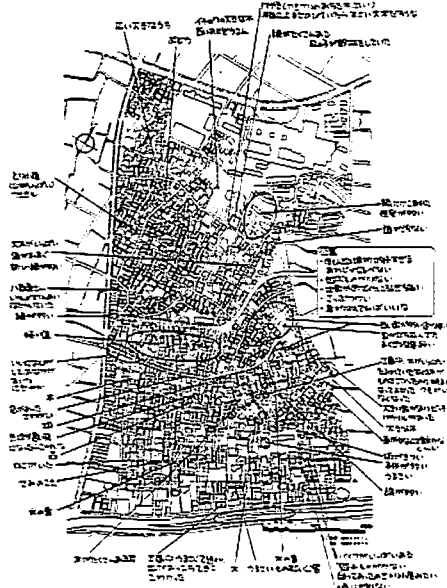
22



点検マップ(大人コース)

点検マップ・2 (子供2グループ)

23



点検マップ(子供コース)



発表会の相談



太子堂歩こう会のポスター

太子堂 オリエン テーリング

(昭和五八年八月から年中行事)



参加者全員集合 /



まちをまわる子どもたち

道がわからない時、私に聞きにきて、どの子の目も輝いていたことが印象に残っています。

横山さん

「太子堂のまちをよく知ろう！子どもに迷路のようなまちを楽しんでもらおう！」といった考えから遊びとまちの学習を結びつけて太子堂オリエンテーリングが誕生しました。

太子堂を舞台に活動している「子供の遊びと街研究会」のメンバーが主体となって、毎年、たくさんの子どもたちが参加して開催しています。(翌年から、家族での参加も加わった)
地図にポイントを設定して、クイズがあったり、絵や俳句をついたり毎年少しづつ問題に工夫がこらされています。賞品も豪華(?)です。

俳句とスケッチ

オリエンターリングも 19

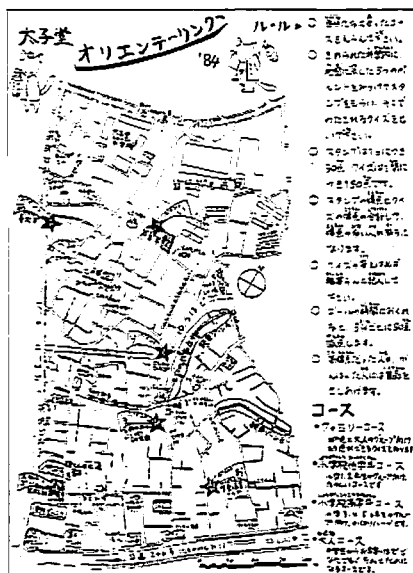
☆ 市町村が「(4)中継地帯」に指定されたとき、その市町村は「中継地帯の指定」を受ける。



子どもたちの俳句とスケッチ

ガイドブックとルール

●ソニンター-リンア 2 15



オリエンテーリングのルールとコース

太子堂
ネリエンタープライズ

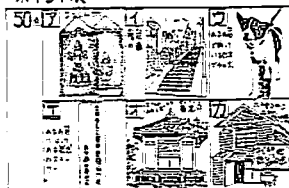
エネキエニモちづくリ陽陽色 三編

ルールの意味のい

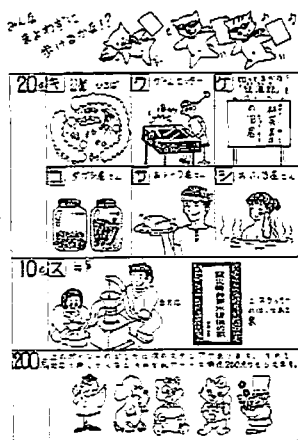
○正しく読むこと 漢字の1画にしろてんをきつめて、くまなく
読むの順序をいって、
○そのまゝのまゝに読むこと、
○読むとき、1行、2行、3行と、
○1行の終わりにあると、また2行の初め、
○1行の初めにあると、また2行の初め、
○1行の初めにあると、また2行の初め、

サ、がんばって行こう!

ポイント表



オリエンテーリング第1回コース



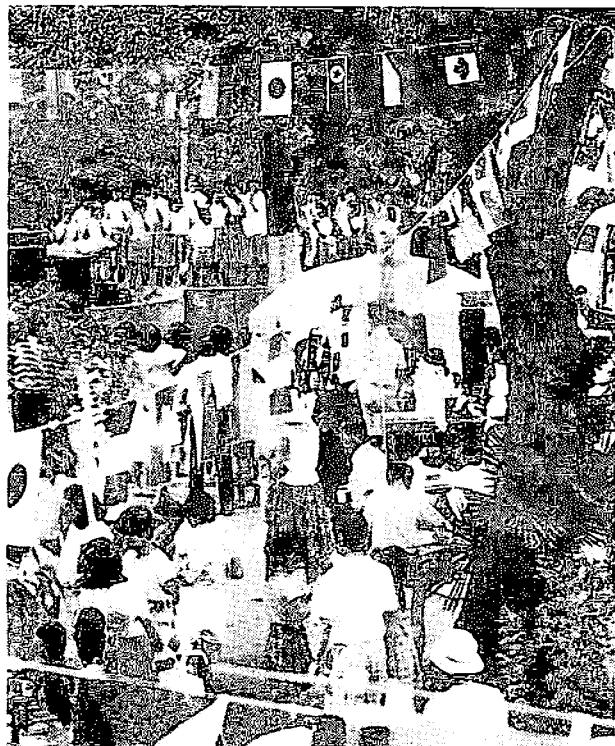
こどもたちがまちに飛び出て、あちこちで大人たちとの会話がはじまります。

太子堂 きつねまつり

(昭和五九年八月から年中行事)

たぬきじゃないよ きつねだよ
きつねのお祭り 知ってるかい
知らなきゃ 広場へきてこらん
太子堂 きつねのお祭りだい

太子堂きつねまつり音頭



一杯に人だかりの公民館区

太子堂歩こう会やオリエンテーリング大会の経験を生かして、もっと大勢の人の参加によって、もっと楽しいイベントにしようというねらいで「太子堂きつねまつり」が誕生しました。

きつねまつりの命名の由来は、「太子堂橋の子連れきつね」の民話をもとにしています。

最初は、まちづくり協議会によって開催されましたが、翌年から、「きつねまつり実行委員会」が組織され地区外の人々も含めて、多くの個人やグループの参加によって夏の風物詩となっています。

歩こう会やオリエンテーリング大会のほかに、フリーマーケット、展示会（みちギャラリー）、青空テ



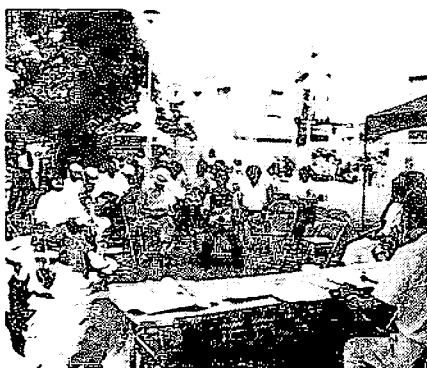
太子堂サンバパレード



展示とフリーマーケット



何トンボおじさん登場



青空ティーチン「太子堂のまちとくらし」



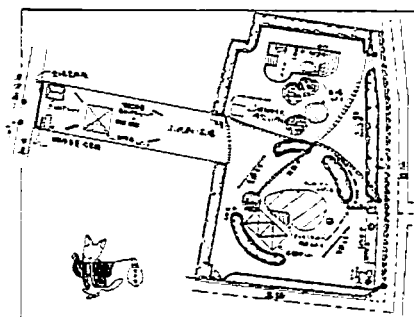
青空コンサート

イーチイン、青空コンサート、伝承遊びコーナー、まちづくりコーナー、スライド映画、劇、神輿づくり、サンバ大会等々、毎年新しい企画が登場し楽しい一日となっています。

住民の音楽家の菊地さんによって「太子堂きつねまつり音頭ときつねまつりサンバ」が作詩、作曲されています。



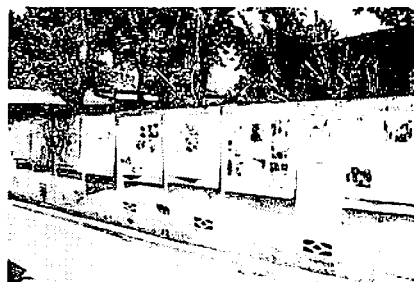
緑道で遊びコーナー



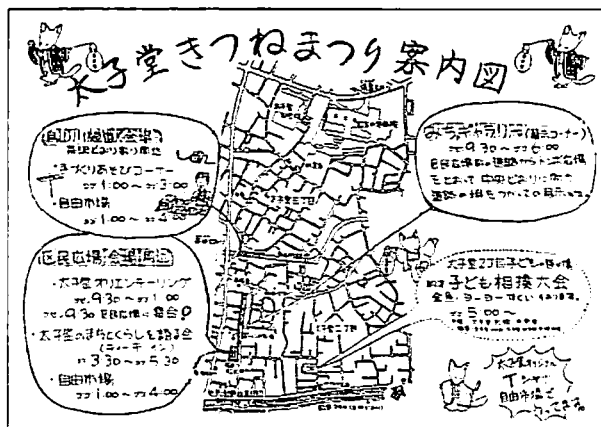
きつねまつりの会場



きつねまつりのポスター



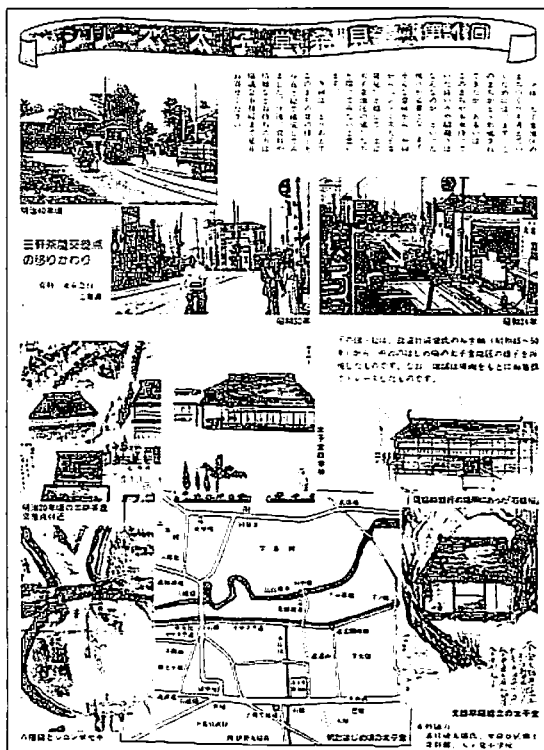
みちギャラリー



きつねまつり案内図

太子堂の歴史を学ぶ

(昭和五八年七月)



太子堂の昔(写真とスケッチ)

太子堂のまちは、とても偉い人や大きな史跡もないまちです。でも、庶民が生活してきた歴史があります。

山田 甚介さん

協議会では、まちづくりを考えるためには、まずまちの歴史を学ぶとうとりにふれて学習会を開催してきました。円泉寺にて古老の話を聞く会、震災体験者の話を聞く会、ティーチ・インでの山田さんからの「まちの歴史のお話」等々です。

また、まちづくりの提案づくりにあたっては、必ずまちの歴史のことが問題となり、年配の方からお話を聞くことになります。

太子堂きつねまつりでも展示コーナーが設けられ、まちの歴史を示す資料が展示されます。

緑の点検会

(昭和五九年六月)



緑の点検結果のまとめ

緑というものは、ぜひなくてはならないものです。たとえ草花ひとつでも結構ですから、ひとつ植えると親しみがでますから手がけてください。

斉藤 尚之さん

まちから緑が失われていくという心配が協議会で話題になりました。そこで、まちにでて緑を点検しようということになりました。協議会メンバーの植木屋の斉藤さんが講師となってまちを歩きました。斉藤さんの巧みな話術で、樹木の名前や性格を学んだり、問題点を話し合いながら点検会を進めました。点検結果は資料としてまとめ、住民に配布しました。



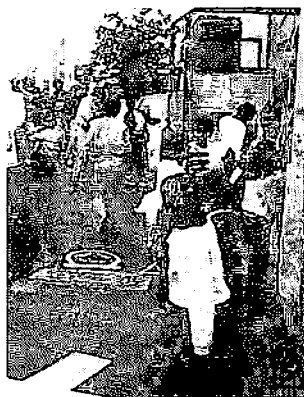
緑の点検会

ブロック塀 点検会

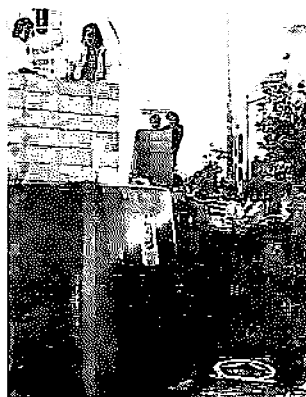
(昭和六〇年一〇月)



金属探知機で鉄筋チェック



ダンダン参加者が増えてきた



高さや傾きの測定

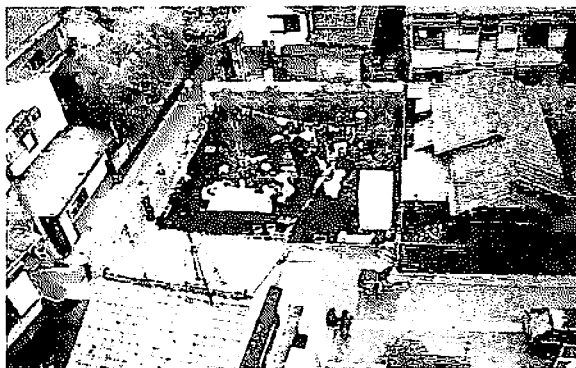
日頃、何気なく通っていた道にブ
ロック塀が多いのにびっくりしま
した。しかも、危険なものが多く
本当に恐くなりました。

大庭 和子さん

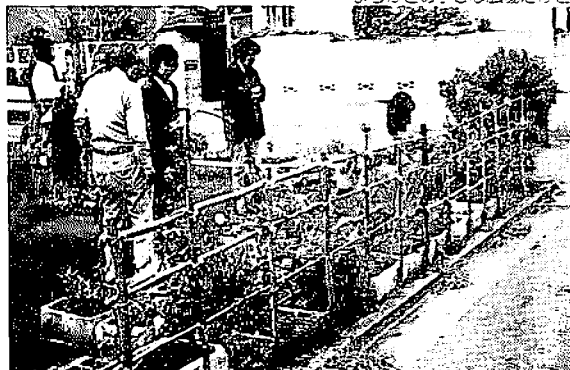
防災対策を現実的に進めようとい
う意見から、試みのひとつとして
ブロック塀の点検会が実施されま
した。三宿小学校の通学路をま
ず点検しようということで、小学
校のPTAの校外委員のお母さん方
も参加して進められました。
ブロック塀の高さ、厚さ、控壁、
基礎、傾き、老朽度、鉄筋等につ
いて日での観察やメジャーでの測
定、金属探知機でのチェック等
を行いました。約2/3のブロック
塀が問題があるという結果になり
今後の重点課題となりました。

トンボ広場 づくり

(昭和五八年十二月)



まちかどの小さな広場だけど



よその公園に比べると、あまりにも小さくてさびしいかも知れませんが、うちの庭のような何となく親しみがあります。みんなが、緒になつて楽しい雰囲気生まれていきます。

山口 雄三さん

区民広場の近くの、宅地を区が用地取得してポケット広場となることになりました。そこで、太子堂らしい広場づくりを進めようということになり、協議会の有志と周辺住民が参加して広場づくりの話し合いがはじまりました。

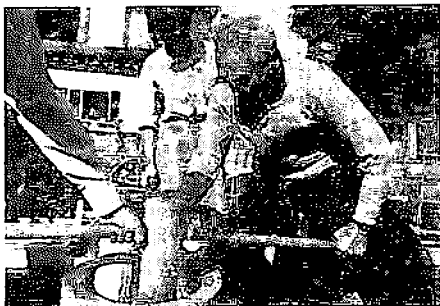
話し合いによつて、手作り・土を生かす・自主管理といった原則が確認され、「トンボ広場を育てる会」が組織され、会長に山口さんがなり五九年四月にオープンしました。より多くの人の参加でみんなの広場となるように、魚屋さんからもらったトロ箱にこどもたちが花を植えて自分で育てるという方法がとられました。

小さい広場ですが、会長の山口さ

太子堂トンボ広場を育てる会・会則（一部）

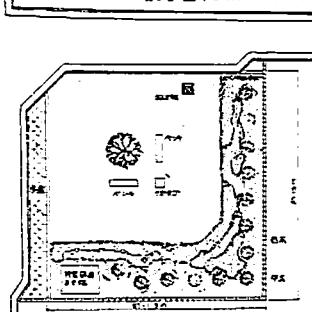
- （目的）
- 第2条 トンボ広場の会は、太子堂二丁目二番地のゲッキン広場（太子堂トンボ広場）を地域住民共済の広場として、日常的に管理運営を行い、太子堂地区のまちづくりに資することを目的とする。
- （組織）
- 第3条 トンボ広場の会は、広場に近接する居住者および太子堂地区まちづくり協議会有志等より組織上によって構成する。（別紙 会員名簿）
- （基本事項）
- 第4条 トンボ広場の会は、第2条の目的を達成するため、下記の事項を行なう。
- （1） 太子堂・トンボ広場を自主的に管理すること。
 - （2） 太子堂・トンボ広場を活用して地域活動を行なうこと。
 - （3） その他まちづくりに関すること。
- （運営等）
- 第5条 会費は、臨時、必要に応じて会費が変更する。
- 2 会の運営は、会員の意見によってすすめる。
- 2 入会申請書に附しては、原則としてこれを交付入れる。

トンボ広場を育てる会・会則



もちつきのプロ会場

太子堂トンボ広場平面図



トンボ広場・平面図



みんなでもちつき大会

同じようなねらいから誕生した広場に「メダカ広場」と「ふれあい広場」があります。

「メダカ広場」は、三宿小学校の通学路沿いにあり、区の用地取得と土地交換によって、住宅と広場と通り抜け路とを生み出す形で広場となりました。トンボ広場と同

*

んや園芸愛好家の寺崎さんたちの努力によっていつもきれいで多くの人々の目を楽しませています。

また、春には花まつり、秋には収穫祭、年末にはもちつき大会といったイベントが繰り返され、まちの名所となっています。

トンボ広場は、昔、とんぼが多かったところから命名されました。

メダカ広場



土地交換でできたメダカ広場

ふれあい広場



ふれあい広場で商店街のほろろ市

一般の皆さんに名前をつけていただくとうと募集をして「ふれあい広場」と名づけました。商店街だけのものではないのでお気軽にお使いください。

内田 仁上さん

様に、手作り・土・自主管理といった趣旨で実現しています。会長さんは、植木屋の斉藤さん。ここでも花まつりや収穫祭が開かれています。

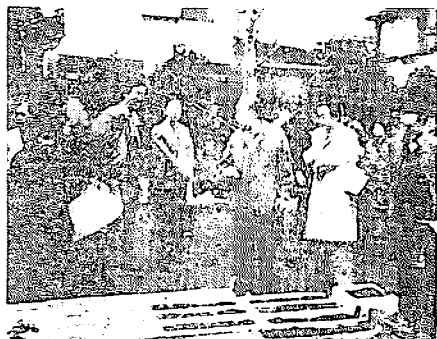
「ふれあい広場」は、茶沢通りに面した区民広場に結合した広場です。ここは、地域の銀座通り商店街が管理しています。公募によって命名されたこの広場は、商店街のバザーやほうろろ市さざ草展などの催し物で一年中利用されています。この広場のために商店街が買った色とりどりのテントはきつねまつり等にも利用されています。

他地区との 交流会



一寺言問地区との交流会

まちづくりを進めていくなかで、しばしば他地区の人々が太子堂をおとずれます。墨田区の一寺言問地区や武蔵野市の西久保地区の方々との交流会も開かれています。



西久保地区との交流会

皆さんの話を聞いているなかでまちづくりに関しては、大変な粘りと長い道程、努力が必要ではないか。あくまでも話合いて解決しなくてはいけないルールがあるのではないかと感じました。これからの私たちのまちづくりに太子堂の方々のもっているノウハウを参考にさせていただきたいと思いました。

武蔵野市西久保地区の皆さん



杉並区への地区計画見学会

協議会で地区計画を検討するにあたり、先進事例として杉並区の蚕糸試験場跡地周辺地区の見学会を開きました。

地区計画 見学会

(昭和六十二年一月)

鳥山川緑道 づくり

(昭和六〇年十二月)



太子堂へ見学会



緑道の説明会

協議会のまちづくり中間提案に鳥山川緑道でのせせらぎづくりが提案され、それを受けて区が計画検討をはじめたところ沿道住民から反対意見がだされました。そこで協議会に広場・緑道部会が設置され沿道住民をまじえて討議がはじまりました。

現在の問題点を出し合ったり、アイデアを出し合ったりという討議のほかに、二回にわたる他地区への見学会や現場での点検会や子供のアイデア会議など多くの試みがなされました。

太子堂のまちに見合った整備をという趣旨から、多くの意見がだされほぼ二年間にわたる討議の結果昭和六二年一〇月に要望と提案がまとめられ実施の方向で検討が続けられています。

太子堂 まちづくり 中間提案

(昭和五十九年九月～六十年二月)

提案の考え方

1. 提案の目的
この提案は、まちづくりの推進を図るため、市民の意見を反映し、まちづくりの方向性を示すことを目的とする。
2. 提案の範囲
この提案は、まちづくりの推進を図るため、市民の意見を反映し、まちづくりの方向性を示すことを目的とする。
3. 提案の主体
この提案は、まちづくりの推進を図るため、市民の意見を反映し、まちづくりの方向性を示すことを目的とする。
4. 提案の期間
この提案は、まちづくりの推進を図るため、市民の意見を反映し、まちづくりの方向性を示すことを目的とする。
5. 提案の成果
この提案は、まちづくりの推進を図るため、市民の意見を反映し、まちづくりの方向性を示すことを目的とする。

6. 提案の意義
この提案は、まちづくりの推進を図るため、市民の意見を反映し、まちづくりの方向性を示すことを目的とする。
7. 提案の留意点
この提案は、まちづくりの推進を図るため、市民の意見を反映し、まちづくりの方向性を示すことを目的とする。
8. 提案のまとめ
この提案は、まちづくりの推進を図るため、市民の意見を反映し、まちづくりの方向性を示すことを目的とする。
9. 提案の今後の展開
この提案は、まちづくりの推進を図るため、市民の意見を反映し、まちづくりの方向性を示すことを目的とする。
10. 提案の最終目標
この提案は、まちづくりの推進を図るため、市民の意見を反映し、まちづくりの方向性を示すことを目的とする。

協議会設立の目的のひとつであったまちづくり提案の作成は、昭和六十年一月にまちづくり中間提案という形でまとめられました。ほぼ二年間をかけて学習や点検や討議を重ねて、昭和五十九年九月に三つの部会を設置し集中的に討議を行いまとめられました。多いときは一カ月に十三回もの部会が開催されました。

提案は、住民参加の産物らしく、区に要望して推進してもらうこと、住民に広く働きかけること、協議会として主体的に活動すること等にわけられています。

以降の協議会の活動は、この中間提案に沿っての実践的な活動になっています。

提案の内容 10の提案

防災活動の推進

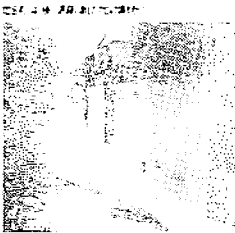
- 1. 避難所
- 2. 避難所
- 3. 避難所
- 4. 避難所
- 5. 避難所
- 6. 避難所
- 7. 避難所
- 8. 避難所
- 9. 避難所
- 10. 避難所

ブロック塀の改良

- 1. 避難所
- 2. 避難所
- 3. 避難所
- 4. 避難所
- 5. 避難所
- 6. 避難所
- 7. 避難所
- 8. 避難所
- 9. 避難所
- 10. 避難所

避難の安全確保

- 1. 避難所
- 2. 避難所
- 3. 避難所
- 4. 避難所
- 5. 避難所
- 6. 避難所
- 7. 避難所
- 8. 避難所
- 9. 避難所
- 10. 避難所



ふれあいの輪が

広がる楽しさ

梅津 政之輔

まちづくり協議会は、さまざまな人とのふれあいの場である。住民参加のまちづくりと言えば格好よく聞こえるが、最初のうちは多様な価値観に接して驚き、また個別の利害をまともにぶつけあう住民同士の激しい議論に戸惑ったりしたことも多かった。しかし、このまちで多様な価値、多彩な生活様式を共存させていくためには、意見の対立を恐れず、話し合いの繰り返しのなかから接点を見出し、合意を形成していくことが本物のまちづくりであると考えようになった。

もちろん、時代とともに人の価値観も生活様式も変わる。まちづくりは、こうした変化に対応して

修正していく必要がある。住民参加の修復型まちづくりの意義もまさにそこにある。人が住んでいるかぎり、まちづくりはエンドレスの仕事となろう。いささか、しんどい気がするが、協議会に参加して得たさまざまな人とのふれあいの輪がさらに広がる楽しみは何ものにも替えがたいものがある。

行政と住民との

協力が大事

山田 甚介

私は商店街の理事長として四年たちます。この間にジョッピンングフロムナード事業に取り組み協議会にはあまり出席できませんでしたが、協議会の皆さんの活動や区の努力はよく知っています。

ここ数年、区の用地取得がなされ子どもの遊び場をはじめ商店街にとっても大変効果のある広場が

でき感謝しております。

ただ、よく感ずることなんです。が、まだまだまちづくりとか都市づくりというのは住民が不慣れですし、行政も不慣れです。そのため、一部の方々は熱心だが全員の協力を得るのに苦勞するようです。太子堂のまちづくりはあまり事例もなく難しいものだと感じております。

世田谷区が大変、力を入れていただき大きな成果をあげていると思いますが、住民がどこまで協力できるかということはなかなか苦勞が多そうです。

今後とも住民と区が協力体制を気に続けていってほしいと願っています。

(談)

自然とのふれあいを

大事に

藤嶋 容美

「三つ子の魂百まで」という諺があります。幼児期の土や草や木そして虫などとのふれあいが人間の精神育成の土台となり、健全な心と身体を養って、行動力のある人間として育つように思います。

二人の子が幼い時から、自由に伸び伸びと遊ばせてあげられる場所があったら良いのにと思っていました。

丁度、区のまちづくり説明会があり、その場で「次の世代を担う子供達のための遊び場をどのように考えていくて頂けますか」と発言をし、その後、機会のある度にいろいろと参加をし、勉強してきました。

これからのまちづくりは住んで

いる人々の声を反映した（目先だけでなく）将来展望をもち、次代を背負う児童やお年寄り達が心身ともに健全に暮らしていけるものでありたいと思います。そして、みんなでできるだけ参加しながら安心して住め、自然環境を守り育てて進めていけたらと思います。また、区はそうように進めていってほしいと思います。

木賃アパートとともに

木下 勇

協議会があるから「子供の遊びと街研究会」はあるのだろう。私にとってこの二つの会はリヤカーの両輪みたいなものだ。

思えばリヤカーを引っ張ってこの町を転々と移り住むこと四回、八年目となる。

最初のアパートの名は「東日」だが、部屋は北向きだった。首都

高の脇で夜中に地震かと飛び出した。たらだんの行進だった。次は、「あざみ」。傾いた床にゴロゴロ転がって寝ていた。そして三番目が「梢」。緑道のはとり。日当たりよくやつと落ち着いた棲み家を得た。平和な陽光にまどろんでいると、窓の下でガヤガヤと緑道せせらぎづくりへの反対署名運動の声。ヤバイと直観した。せせらぎは協議会が提案したことになっている。

広場緑道部会の長を授かった私は後、近所の反対の人達の攻撃の矢面に立たされる。ついに反対派のリーダーの奥さんは私の静かな棲み家を突き止め、押し掛けてきた。それ以来、あの手この手の懐柔策を繰り広げてくる。陽光にまどろむどころではなくなった。

協議会では反対派の人と毎日話合いを持ち、まる二年が経過したその間、私はものごととは一方の論

理だけではないことを勉強させて
いただいた。時に、反対の声は過
ちを犯さないためにも真実を深く
追求するためにも重要であると。

今、私はワンルームマンション
に住む。そしてワンルームマンシ
ョンの問題を肌で感じている。少
なくともここては外の虫の音もそ
して町に起こるできごとの気配も
感じるができない。また、リ
ヤカーの出番も近いかも知れない。
だが、今は懐かしい「東日」も「梢」
も取り壊され、既がない。

もつと輪をひろげたい

寺崎 茂

この町に長く住んでいるから協
議会に入ったの。緑化に関心があ
って、トンボ広場やその他の広場

について興味があってやっていま
す。本当は緑について関心持って
いる人は多いんだけど、なかなか
自分のことにならないと出てこな
いんだ。

最近、建替えて木を切っちゃつ
て緑が減ってるね。個人では好き
な人はいてもまとまりがないんだ
な。

緑を増やすには、二項道路の後
退したところに草花を植えた方が
いい。全部の道路がひろがるまで
は一部舗装しても違法駐車ばかり
になってしまう。それから生垣に
するのがいいね。でも生垣にする
と後の手入れもお金がかかるから
何か考えないといけないね。生垣
にするのも緑を増やすのも防災に
役にたつよ。

もつと協議会の活動を多くの人
にひろげたいね。何か問題がおこ
るとその場所その場所で大勢でて

くるけど、利害関係がでてくるか
ら全体的なひろがりにならない。
もつと輪をひろげなくちやいけな
い。(談)

まちの一員としての

自党と話合いの場を

藤村 貞夫

私が「まちづくり」を知ったの
は、協議会が発足するにあたって
会員を募集するというニュースで
した。その前の私は岡山の再開発
等のコンサルタントをしていまし
た。自分のまちのことに参加しな
いのは一住民として自覚が乏しい
ように思いました。やがて参加し
ていくと、一住民、専門家さらに
副会長という立場のために言動の
一致しない部分がでてきたり誤解
を招いたりしますが原点は住民と
いうことで活動しています。

特に主張していることは、地域

特性から道路整備を進めていくと不法駐車が増え、かえって災害上

危険な地域となってしまう恐れです。二項道路は歩道つきで四mにすべきと思います。お年寄りも多いのでまず歩行者の安全が第一、ということです。もうひとつは「緑と水」ということです。公共用地ばかりでなく民地の道路側も緑化をはかれればと思います。

まちのことをまちの人達で考えようという発想はよいのですが、ある時点で全住民がまちのことを関わるというわけにはいかないの、年月をかけてでも自分の家のことだけでなく、常に「まち」の一員としての自覚と普段からの話し合いのできる場をつくっておくことが本場の「まちづくり」ではなにかと思います。少しづつできることからの改革と、その時点で試行錯誤ができる仕組みを期待しま

す。単に整然と整備されるまちがよいではありません。

難しいこと

いつたつてダメよ

斉藤 尚之

私は、協議会だけでなく、町会や緑のまちづくり推進員やっているの、緑や防災についてはいろんな活動をしているよ。協議会でも緑の点検会をやったけど皆さん、植木の名称さえ知らないんだ。もっと、機会を増やしてみんなに緑のことを教えてあげたいね。机上でいつたつてわからないんだから、みんなて歩いて実技でやった方がいいね。まちづくりの宣伝にもなるしね。

トンボ広場やメダカ広場も担当してるけど場所所にあつた緑を考える方がいいね。それから、おもちつきやつたりするのはいいね。

もつと多くの人にPRした方がいいと思うよ。

せっかくみんなていいことをやっているんだから、協議会のことをよく知らない人も多いしもつと楽しく面白くやって、人よせしないとだめだね。難しいこといつたつてダメよ。(談)

再開発に対する心配

豊田 キヨ子

私がこの協議会とかかわりを持つたのは懇談会の時からで、当時はお互いに気心もよくわからない住民同士で意見の対立もありました。しかし、今はお互いの交流もでき、いいたいことをいいながらの連帯もできてきたようです。

三軒茶屋は、茶沢通りをはさんで、いま「街づくり推進地区」と「再開発地区」とにわかれていきます。行政の都合によって、同じ商

店会、同じ住民がわけられているような気がします。「茶のまち」を考えていくために、お互いに知り合い一緒にまちづくりをやりたいという発言は、担当のちがいによってしりぞけられがちです。

打ちあげられているものは華やかでも、住民にとっては、超高層企業ビルは環境破壊の恐れがあり、三軒茶屋のまちにはふさわしくないという声が、このまちでよく耳にするようになってきました。

三宿でも協議会を

つくろうとしている

平山 正三

二四六号沿道に広告塔建設の動きがあって、住民に犠牲を強いることになるので反対運動をやりました。協議会が中心になって、区や広告主と交渉して、取り止めたケースもある。協議会の力

だと思う。これを見て、最近、隣の三宿でも署名を集めて協議会をつくろうとしています。環境を守るためには結束しないとだめだということです。

建て方のルール部会をやっている、広告塔やワンルームマンションやいろんな問題がてきます。ルールが必要ということです。

それから、協議会にはいったことがきっかけになって町会の防災部長になった。消防車が入れないような所があるので道路をつくってほしい。

これから問題となりそうなのは建替えにあたって借地が多いので地主との間で問題がおこりそうなことです。気の長いことになるが少しづつまちづくりが進んでいくことが大事です。

(談)

生活に根ざした企画を

萩原 礼子

はじめの頃は毎回出ていたが、今は出ていません。

途中で引越して、今は太子堂に勤めているということもありますが、出てあまり意見を言うようなこともないので、まあ結果を聞けばいいやという気持ちです。

広報を担当していましたが、表現の自由があまりないので(役所と同じく地域の中で中立て常にマジメな姿勢でなくてはいけない)ちよつと私には向かないなと思いました。

一番好きなのはおもちつきです。あれは参加していて無理なく楽しめます。仕掛けるという発想で何かやっても、ボランティアではしんど過ぎるので、もつともっと生活に根ざした企画ができるといい

なと思います。

せいろやかまどを協議会で買ってポケットパークに貸し出し、あちこちでもちつきや五月のちまき作りやミソ作りなどが行われるようになるのが私の夢です。

自分達のまちを

考えること

清水 透

私達の住む街が少しずつ変わってきたと感じだしたのは、自分の子供と一緒に遊んだりすると、私自身の子供の頃の遊び方とだいぶ違っていることに気がついた時です。自分が子供の頃は朝から晩まで遊んでいたような気がします。なぜ今の子供はもつと自由に遊べないのか、そう考えてみると大人達の近隣関係も昔とはだいぶ違ってきていました。

そのようなことを感じている時には、区のお知らせ掲示板に「まち

づくり協議会」への参加の呼びかけのポスターが張つてあるのを見て、なぜか「まちづくり」という言葉に引かれて協議会をのぞいてみました。メンバーの方々が自分達の住む街について、真剣に議論しているのに感動して、その後ずつと参加させていただいています。協議会活動の中でいろいろな行事や部会に参加し、多くの人達と知りあえたことも自分自身にとつて大きな財産だと思っています。

このような自分達の住む街を自分達が考える協議会が世田谷区の各地区にたくさん出来たら、本当に住みよい街になって来ることと思います。

人がいてまちがある

岡田 順三

私は世田谷区内に二度住んだことがある。二度目が上馬で勤め先が同じ二四六号線の大坂上である

ので当時よく自転車で太子堂あたりに迷いこんだのだった。ある日太子堂の掲示板に「太子堂地区まちづくり協議会」発足の知らせがあり、誰でも参加できるとのことであつた。

今、私は何故か新宿に住んでいるがあいも変わらず太子堂に来る。協議会、子供の遊びと街研究会、さらに多くの人々との交流があるからだ。協議会では私はオブザーバーである。私は私でもできること、写真による記録作業を自分に課した。

私は気がついた。私が撮る写真のほとんどに人々が写っている。人がいて、何かが起こつてそれが風景になっている。人がいてまちがあるのだ。しばしば、街があつて人々がいなくなる。生活文化拠点、三軒茶屋・太子堂でそんなことが起こつてはしくないと思う。

おとなの目で考える

松尾 初美

太子堂の住人でない私が、協議会に参加するまでに二つの活動の場がありました。一つは一三ヶ月前から五ヶ年程参加した調布市と国分寺市の児童館の「自然探検隊」という親子で参加する野外活動のリーダー、もうひとつは五ヶ年程前から参加し今も続けている「子供の遊びと街研究会」という太子堂をフィールドとした研究グループです。そのどちらも活動方法は異なるものの、今の生活や環境を、前者はおとなの目とこどもの目、後者はこどもの目を通して学ぶ場でした。

そして今は、おとなの目を通してそれらを考える場として協議会に参加しています。利害や職業的立場の違う人に出会い、ものの見

方、考え方の多さを知り、それらのことを踏まえた上で、生活を楽しくするために大切なものは何なのだろうと自分に問いかけ直しているこの頃です。これからのこの会でいろいろな人に出会えるのが楽しみです。

太子堂まちづくり協議会のメンバーの方々

(準備会から現在までの全参加メンバー・アイウエオ順)

秋元 芳松	金井 和子	竹崎喜之助	平石千枝子	和口 輝夫	松尾 初美
芥川 晃	木下 勇	田村 重義	福本 安勝	オフザーバー	孫 徳次
芥川美枝子	河野 英雄	鶴江 郁子	藤倉 章男	有坂 正一	森 寿
安部 ツヤ	久保田 清	寺崎 茂	藤嶋 容美	飯島 半平	森村 幸茂
天沼美代子	倉澤 育造	戸田 捷二	藤村 貞夫	稲葉 佳子	山内千枝子
五十嵐助司	小山千代子	土橋 賀	占幡 晃一	宇田川義信	松本 巖
石川 正三	小山 誠	富田包二郎	平山 正三	岡田 順三	事務局
石坂とし子	齊藤 尚之	豊田 惇司	福島 要子	岡本 英子	会沢 勇三
石田善一郎	坂根 長治	豊田キヨ子	保尊今朝利	沖島 馨	石賀 健勝
石山美智子	相良 広次	鳥居 宏至	程塚 豊	久保田 望	伊藤 弘
井上 武	桜井 吉兼	中嶋 伴司	堀江 源彌	小針 芳子	江口 千尋
稲田 富江	佐藤 省三	中田麻里子	堀越 昇	篠宮 陽子	大塚 順彦
内田 仁士	佐藤 春治	中村 富枝	松岡 健一	島村 孜朗	大塚 保道
梅津政之輔	佐藤 春隆	中村 ふさ	丸山 孝夫	清水 透	小田切利栄
大澤 一夫	篠宮 陽子	浪貝 寛隆	三森 光通	清水 瑞恵	春日 敏男
大平 辰夫	島田 秀孝	浪貝清太郎	宮入 一彦	中村 昌之	佐藤 卓雄
岡部長太郎	鈴木 勤	西沢 義雄	村上富喜子	西村 佳子	竹内 時夫
沖島 馨	関口 富男	西沢 義忠	山岡 健三	原田 佳子	戸内 文博
萩原 礼子	関根 鉄雄	萩原 昌幸	山岡 慎子	樋口 正子	星 明佳
江原 静	瀬戸 征夫	原 富太郎	山日 一之	牧野 孝	堀ノ内 裕
鎌田 兼雄	高橋 敏男	原	山田 甚介	牧野 孝	八頭司達郎
					渡辺憲四郎

